かけ橋

まだ見ぬ君へ…

広見公園の東隣にあるこども療育センター内で、いろいろなおもちゃの貸し出しボランティアをしている、ふじおもちゃ図書館をご紹介します。

ふじおもちゃ図書館

ふじおもちゃ図書館は、平成三年から、こども療育センター内の一室で毎週土曜日の午前九時から十一時まで活動をしています。ここでは、おもちゃを貸し出ししてくれるほか、おもちゃで実際に遊ぶこともできます。特に、雨の降った日などは大変にぎわいます。また、講演会などの託児サービスやお花見会を主催したりと幅広い活動をしています。

代表の稲葉正子さんは、次のように話してくれました。

「ふじおもちゃ図書館は、いろいろな障害を持った子供と、持たない子供の交流の場として発足しました。こども療育センターができるときに、このような部屋が設けられると聞き、身近でふだん着感覚でボランティアができたらと思い、活動を始めました。

ふじおもちゃ図書館は、名前に『図書館』という言葉が入っているせいか、かた苦しく考えられたり、おもちゃの貸し出しが主な活動のように思われがちですが、人と人の交流の場を提供することを目的としています。ここに親子で遊びに来ることで、子供同士親同士の情報交換やコミュニケーションを活発にしてほしいと思っています。それに、会員のほとんどが子育て経験者。育児に関する相談にも気軽に応じていきたいとも考えています。また、障害を持った子供でも操作しやすいおもちゃや家庭に置けないような大きなおもちゃなどを、充実していきたいです。

子供を通して新しい発見があり、やりがいがあります。欲を言えばもっと広い部屋がほしいですね(笑)。また、おもちゃの修理ができる人や子供が好きな人にふじおもちゃ図書館の会員にもっとなっていただきたいですね」

▼問い合わせ▲　稲葉正子　方　☎三五—三四四四

ひと

第53回「春の院展」に初入選した

村石 恵子さん

(柚木)

春の院展に入選した日本画の題名は「冬日」。村石さんの自宅の廊下から台所を見たお気に入りの風景を描いたものです。どちらかというと人物画が好きという村石さんですが、この作品は描く前から題名が決まっていて、絵を描いている途中でも迷いはなかったと言います。

村石さんは、「私が日本画を描くのは、あくまで趣味の範囲。主婦の仕事の合間に時間を見つけて、自分が描きたいときに描きたいものを描いています。私の目標は自分が満足できる絵を描くことですので、出展もあまりしませんし、いままで大きな賞を受賞したこともありませんでした。ですから、入選の知らせが来たときは、うれしいというより、信じられないという気持ちが強かったです。いまでも『棚からぼたもち』だったと思っています。

今回たまたま入選したとはいえ、私の一番主な仕事は主婦であり、それを崩すつもりはまったくありません。ただ、絵をやっていてよかったと思うのは、いろいろな人と出会えるきっかけがあること。家に閉じこもっているだけでは得られない体験もあり、考え方も広くなります。これからも、自然体で気長に楽しく日本画を描いていけたらと思います」と話してくれました。

入選作品「冬日」